

は じ め に

鳥取県立博物館は昭和47年10月1日開館した。

このたび、開館第一年度の昭和47年度の年報を発刊する運びとなった。

1年8ヶ月に亘る年月と11億3千万円に及ぶ巨費を投じて建設された白亜の殿堂は、西日本最大の文化の殿堂であり、郷土の総合博物館として、郷土文化の保存と創造のために、重要な役割を担うことになった。

開館当日、長蛇の列をなして入場を待ちわびていた人々の明るい笑顔を、私は忘れない。そして、博物館の職員は、開館以来、僅か半年の間に、13万人を越える来館者があったという事実の意味を忘れてはならない。私達は、この数字の重さを、博物館に対する関心と期待の座標として受けとめ、奉仕する心の糧として自己を研修しなければならないと思う。

この年報は、本館が開館第一年次に歩んだ赤裸な実態である。この一年間は、私達は館の未来を指向しながら館の運営に当って来たが、草創期に共通の希望と悩みの繰り返しの中での努力の連続であった。今、資料を読み返しながら、この年報が本館の輝かしい未来像開花への貴重な資料となるであろうことを確信してやまない。

県民各位の今後のご指導とご協力とを切にお願いする次第である。

昭和48年10月

館 長 西 本 眞 一